

三陸の海を放射能から守る
岩手の会 (略称) **三陸の海・岩手の会**
郵便振替 02240-5-102650
ホームページ 《再処理／岩手の環境》
<http://sanriku.my.coocan.jp/>
《本紙の全バックナンバー掲載》

止めよう!
《再処理》

《天恵の海》
2017(平成 29)年
12月12日
第183号
編集事務局 S.Oshida
TEL・FAX 019-623-1636

兵器も原発も 核は人類を滅ぼす

— 原爆・原発の全廃に向けて 猶予は許されない! —

工学博士 落合栄一郎氏 講演会 (生物無機化学専攻)

11月3日文化の日、岩手大学構内で、私達 三陸の海・岩手の会と日本科学者会議岩手支部が主催し、落合栄一郎氏による『兵器も原発も核は人類を滅ぼす』と題する講演会を開催しました。落合氏は、核物質から出る放射線が生き物にとって如何に危険なものであるかを論理的具体的に説明し、核兵器廃絶のみならず、原発による “核の平和利用” の禁止も、今世紀中に実現しなければならぬ人類的課題であると強く訴えました。

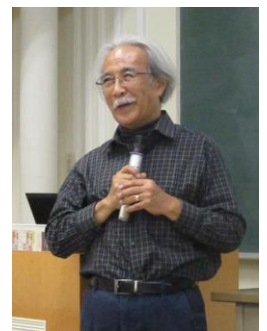
(取材：まとめ：尚)

報告その1
核の平和利用の禁止も含めた
核廃絶の実現を!



核兵器禁止条約
(NWBT)
採択の瞬間

2017.7.7
国連総会



落合栄一郎氏は、持参したスライドを示しながら分かりやすく論を進めました。

**核兵器禁止条約採択は
世紀を超えた大きな成果**

まず今年七月に国連で採択された核兵器禁止条約について触れました。すなわち、二〇世紀に人類は核分裂、核融合などの核の現象を発見し研究を開始しました。そして、生み出される巨大なエネルギーを早速に兵器に利用し、原爆、水爆なる悪魔のごとき兵器を作り出してしまいました。

しかし広島・長崎の原子爆弾による攻撃は巨大な破壊と悲惨な光景を現出させました。核兵器が使われれば、人類の多数が消滅し地球環境が大方破壊されかね

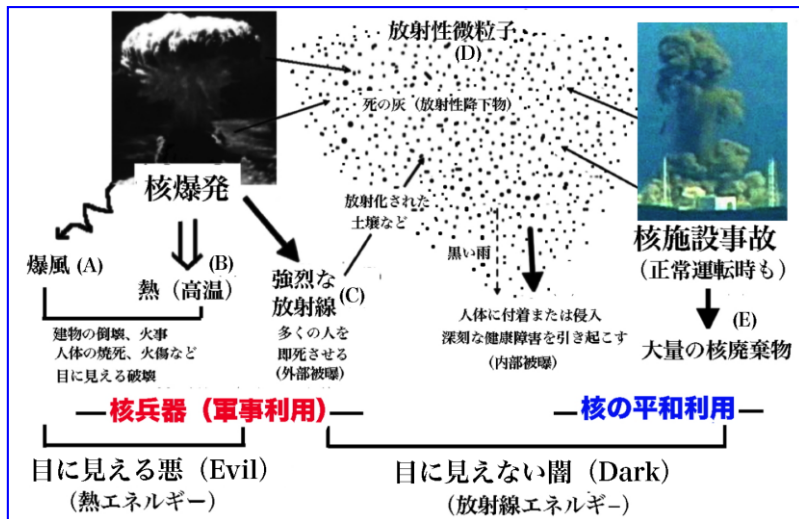
1936年東京生まれ。東京大学工業化学科卒。カナダや米国、スウェーデン、ドイツの大学で化学研究と教育に従事し、退官後カナダ・バンクーバーに在住。バンクーバー9条の会やWorld Federalistsなど平和/持続可能性問題の組織に関与。核と放射線、環境問題、文明の基本問題などについて多くの著作を発表している。

ないことを、目撃した多くの人々はすぐに理解しました。これは、誰の目にも見える“わかりやすい悪”だったからです。悲惨さを理解しても、作ってしまったものを使わずにおくことはなかなか難しい。だから、国連で非核保有国の大部分が賛同して『核兵器禁止条約』が採択されたのです。二一世紀となった本年夏のことです。これは大きな成果です。

**核の平和利用は
”目に見えない悪”**

しかし核兵器の開発を進めた人々は、“原子力の平和利用”と称して、核兵器の悪を打ち消そうとしました。これまでに地球上に設置された原子炉は四百数十基。百万ワット級原発は一基で一年間に広島原爆一〇〇〇個分の放射性廃棄物を作り出します。

核問題（悪影響）の2局面



これまでに「広島原爆六〇〇万個分の核廃棄物」を作り出した計算になります。人類は放射性物質を安全に長期にわたって人間や生き物に害を与えないで保存する方法をまだ編み出していません。

おそらく完全な方法は無いだろうし、巨額な費用が必要です。これは「目に見えない、闇の世界の悪」です。

放射性微粒子が

人間や生物を襲う

原子炉や核産業から出される放射性物質は様々な原因によりガスや微粒子の形で、環境中に放出されます。そして知らず知らずのうちに人体や他の生物に内部被曝による悪影響を与えます。こうした被害について、落合氏は「核産業が出来てから、すでに少なくとも数千万人が犠牲になっている」と推定しました。

核の悪を見抜く

科学の目を

落合氏は、この放射性ガスや微粒子による被曝について、現在多くの人は、それに気づかず知らされないうちにされており、核兵器禁止条約の国際的議論も不十分であったと指摘しました。被害が明確に見える「核兵器」の禁止と、放射性微粒子という定かには見え難い「核の平和利用」の害について、議論はまだまだこれからであるとなりました。

核問題、二局面、五つの側面

落合氏は上のような図を示し、核問題を、熱エネルギーと放射線エネルギーによる二局面と、さらに、放射線の害をA～Eの五つの側面に分けて、しっかりと学ぶべきとしました。

「核」から生ずる放射線の被害は、目に見えようが、目に見えないが、地球上に生息する生物にとつて、非常に危険であり、放射線を出す物質はこれ以上作ってはならないと述べました。

目に見える「悪」核兵器・軍事利用

巨大なエネルギーが生じる核爆発は凄まじい爆風、数千度を超える高熱、そして強い放射線を発して広島、長崎の人々を襲いました。これは誰の目にも見える大被害です。

A 爆風



町を吹き飛ばし、

B 高熱



住民を焼き尽くし、

C 強烈な放射線

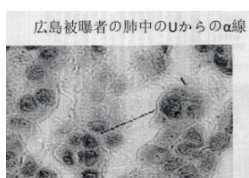


人の影だけを残した。

目に見えない「悪」核による環境破壊

しかし目には見えない被害はさらに恐ろしい。原子核の現象である放射性核物質は極小微粒子として大気や水に混じり健康被害をもたらしました。

D 放射性微粒子



広島被曝者の肺。ウランからα線

七〇年まえに肺に吸い込まれたウランから放射線が今も出続けています。

E 大量の核廃棄物



福島事故3号機の爆発

大量に貯まり続けた使用済み核燃料が、爆発を起こしました。水素爆発なのか、臨界爆発なのか、議論されています。

核不拡散条約の大きな誤り 見えない闇を見据えよ！

落合氏は、上記の五つの観点から、一九六八年に結ばれたNPT(核不拡散条約)が「核の悪」の防止をめざすには大きな誤りを含んでいると指摘しました。

同条約には①核兵器、およびその技術の拡散防止 ②核兵器軍縮の促進 ③核軍縮を達成するための各種の条約の制定と書かれています。さらに、④には「核の平和利用の促進」となっています。しかし落合氏は④の項は大きな誤り(BIG MISTAKE)であると、その理由を述べました。

すなわち「平和利用」の原発は軍事利用に転用される。大量の放射性物質を作り出し、特に原子炉で必然的に出来るプルトニウムは原爆の原料となる。この見えない闇を見据えた条約こそが必要であるとしました。

(次号に続く)